

■児童・生徒の学力の状況

令和8年度の全国学力学習状況調査の結果から、本校の国語では、引用して自分の考えが伝わるように書き表す問題について課題が見られた。また、既習の漢字を正しく書き分ける力にも課題がある。算数では、図形の問題に課題が見られた。特に体積の計算による求め方についての理解はあるが、体積の意味についての理解が低いことが分かる。

■授業革新推進に向けた、指導上の課題

○「板橋区授業スタンダード」「板橋区授業スタンダードS」に基づいた学習の実施に加え、学びの成果を振り返る機会を充実させること。
○ICT機器を効果的に活用しながら、児童の思考をつなげて学びを深める展開の充実と表現力向上を図ること。
○学習のねらいに応じて、適切な一人一台端末の活用を増やして学びの質を高めること。
○9年間の学びの系統性・体系性を意識した学習を実践し、小中一貫教育の取組を推進していくこと。

■学校経営方針より（学力向上に関わる内容から）

○「板橋区授業スタンダードS」に基づいて、児童が自ら教材・方法・ペース等を選択できる学習環境をデザインできるように指導方法、授業スタイルを改善していく。
○生活科・総合的な学習の時間を中心に、地域との連携を深め、「伝わる発表・自分にできる行動を起こす」ことを大切にする。そのために、漢字や計算学習の定着だけでなく、教科を横断し日常的に表現する機会を設け、学力向上につなげる。
○自分の学級だけではなく、学年を2名で担任する意識を高め、高学年を中心に交換授業・教科担任制を行い、学びが深められるようにする。

■確かな学力の育成に向けての具体的な方策

視点1 板橋区授業スタンダードの徹底、及び 板橋区授業スタンダードSの取組	視点2 ICT環境の適切な維持と活用 個別最適な学び・協働的な学びの実現	視点3 総合的な学習の時間との連携
○問題解決に必要な情報を比較、関連付けながら相手に説明する活動を増やし、表現する機会の充実を図る。 ○児童の思考の表出方法も踏まえた具体的なめあてを提示し、めあてに対して振り返る時間を設定する。 ○児童が自分に合った学習内容、方法、ペース、順序を自己選択、自己決定し自己調整できるような学習を教員がデザインする。	○文章や図表等を読む活動、複数の条件を満たしながら、考えたことを整理し直してまとめて書く活動の機会を習慣化する。また、児童の思考をつなぎながら論理的に課題を解決する学習を行う。	○総合的な学習の時間において、児童一人ひとりが各教科で身に付けた資質・能力を活用しながら、課題設定、情報収集、整理・分析、まとめ・表現の探究のプロセスを繰り返していく学習活動を展開する。

■MIRAI SCHOOL いたばし-教育ビジョン2035- -アクションプラン2028-の実現に向けた具体的な取組

保幼小接続・小中一貫教育の推進	豊かな心と健やかな体の育成	多様な教育的ニーズへの対応
○円滑な保幼小の接続ができるように、学校を中心に幼児教育・保育施設の関係者と意見交換を行い、相互の教育の関わりができるようにする。 ○学びのエリアを中心に義務教育9年間のつながりを見据えながら、各教科の学習計画の修正・追加を行う。	○生活科・総合的な学習の時間を校内研究とし、児童が身近な問題を見だし、地域・社会に参加しながら問題を解決できるように学習計画を編成し、見直し、改善していく。 ○道徳授業の充実を図るための、道徳授業地区公開講座の実施や地域・保護者への道徳授業の公開を行う。 ○多様な他者と話し合いを通じて合意形成する力や課題を解決する力を育成するために特別活動の学級活動(1)の充実を図る。	○児童の多様な教育的ニーズに対応するため、学校生活支援員や小1サポーターを配置し、児童の心理的安全を保証する。 ○誰にでも分かりやすい授業の展開、過ごしやすい教室の整備、活動しやすい学級づくりを促進し、インクルーシブな教育環境の実現を目指す。